



広報 なかわだ

第424号

2015年7月5日

2015年7月

中和田カトリック教会
広報委員会

泉区中田北1丁目9-1 Tel. (045) 803-6141
<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

「日本カトリシズムの開拓者」

小野寺 功

最近の朝日新聞に、「神や仏を信じますか」という興味深いアンケート調査がでていました。

それをみると、神仏を信じる人が58パーセントもあるのに、「信仰している宗教はありますか」という質問に「はい」と答えた人は16パーセントでした。無宗教だけど、無神論ではない、この「無宗教の宗教」ーこれが、多くの日本人の本質的な体質だと思います。

これに加え、さらに新興宗教が起こした大事件は、関わりたくない印象を宗教に与えました。そして、これが現代日本の閉塞状況を作り出していると思います。

こうした閉塞状況を乗り越えるためには、真に日本的であって、しかも世界的であるようなカトリック思想が求められます。こういう思想は果たして存在するのでしょうか？

現在私は、井上洋治著作選集（2）の解説を依頼されて「余白の旅・思索の跡」を読んでいます。その中に答えがあるような気がして、深い感動を覚えました。

「余白の旅」とは、井上神父の精神史で、（1）生きる意味を見出せない若き日の苦悩からベルグソンや聖テレジアの「小さき花」に出会って受洗するまで。（2）1950年フランスの男子カルメル会に入会、在仏8年、「日本とキリスト教」という課題を背負って帰国まで。

（3）司祭として一層認識を深め、生きとし生けるものを生かす「余白」から吹き抜けていく風を「聖霊」と捉えるまでの思想遍歴を明らかにする旅をさしています。

この著書から私が学んだことは、キリスト教は最深の意味で「聖霊の宗教」であり、ここまで掘り下げられて、初めてキリスト教は日本的霊性と結合するのみでなく、真に世界的・普遍的となりうるということです。

この意味で、井上洋治神父は、遠藤周作とともに日本カトリシズムの開拓者といえると思います。若い方々の意見を聞きたいものです。



日	曜	典 礼 (ミ サ)	備 考	そ の 他
1	水	週日ミサ (9:30)	ペトロ岐部と187殉教者[記]	聖書の分かち合いと祈りの会 (10:00)
3	金	初金ミサ (9:30)	聖トマ使徒[祝]	
5	日	主日ミサ (9:00)	年間第14主日	
8	水			聖書の会 (10:00)
10	金	週日ミサ (9:30)		
12	日	主日ミサ (9:00)	年間第15主日	教会委員会
15	水			聖書の会 (10:00)
17	金	週日ミサ (9:30)		
19	日	主日ミサ (9:00)	年間第16主日	信徒の会
22	水			聖書の会 (10:00)
24	金	週日ミサ (9:30)		
25	土	祝日ミサ (9:30)	聖ヤコブ使徒[祝]	
26	日	主日ミサ (9:00)	年間第17主日 子どもミサ	
29	水			聖書の会 (10:00)
31	金	週日ミサ (9:30)		

～ 中和田の風 ～

「神は愛」

－ 弱い私が強められるもの －



2013年から財務で活躍しておられる清尾史子さんにお話を伺いました。

▲洗礼のきっかけは何ですか？

一母がそうだったように幼稚園から大学までカトリック系のミッションスクールでした。子供の頃はシスターたちの雰囲気になじめず、中高生にもなると却って反発する気持ちの方が強くなっていきました。大学になってスペイン語学科を専攻したのですが、そこで出会ったスペイン人の聖職者や教授陣の方々がとても明るく「神と共にある」ことの素晴らしさ、信仰の喜びを存在そのもので体現しておられることに驚かされ、カトリックに対する考え方が一変させられました。揺るぎない信仰に裏打ちされた教授陣に囲まれ恵まれた大学生活を送ることができました。しかし大学4年になって、これからの長い人生を一人で生きていくことができるのだろうかと思暗然とした不安に悩まされるようになった時、神の助けがなければ生きてはいけないという思いに至ったのは極自然なことでした。そして4年生の聖夜祭に受洗しました。

▲神奈川県立がんセンターでボランティアをなさっていたと伺いました。何がきっかけで、又どんなことをなさっていたのですか？

一息子の同級生のお母さんに誘われたのがきっかけです。二俣川教会の方が始められた「ランパス」というボランティア団体で、がんセンターに入院しておられる癌患者の皆様とその家族の方々に寄り添うボランティア活動です。誘われた時は少し躊躇しましたが、ちょうど「ランパス」の活動の記念誌を数か月後に発行する予定になっていて、編集を手伝って欲しいとのことで引き受けました。その活動で否が応でもパソコンに触れることになり、それが今に繋がっているかと思うと不思議ですね。

記念誌は何とか無事発行できたものの、実際癌で苦しんでおられる患者の皆様に寄り添う話し相手（傾聴）というのは想像以上に難しいものがありました。患者の皆様の不安、不満、痛み、苦しみをただひたすらお聴きして一緒に泣くことしかできませんでした。何のお役に立っているのか分からず自信を無くすこともありましたが、中心で活動されている方の「寄り添うことが必要とされている」という強い信念に支えられ何とか活動することができました。その後はがんを患った両親を看取ることになり、肉親が故の更なる困難を感じましたが、「ランパス」での経験が何らかの形で役立ったのではないかと思います。

▲最後に日頃の祈りや、大切にしていることを教えてください。

一私は本来意志が弱くどうしても自分本位に陥りやすいので、朝起きた時はまず神様を思い、今日一日をあなたに委ねますと祈ります。夜は一日無事終えた幸せを思い、死の支度をするつもりで感謝の祈りを捧げます。

大切にしていることは「愛」です。これに尽きます。生きていく上で困難に直面することは多々ありますが、それを乗り越えてこられたのは、いつも「愛」を意識しながら誠実に臨んできたからではないかと思います。「愛」を心に持っていれば日々の小さな嫌なことはすぐ忘れてしまいます。私自身は弱い人間ですが、神様の「愛」が私の弱さを越えさせ導いてくださっているのだと思っています。

第48回横浜教区一粒会大会のご案内

テーマ 「小教区は司祭召命の畑」 ～司祭を生み出す豊かな畑となるために～

講師 古巣 馨 師（長崎教区）「小教区は司祭召命の畑 ～司祭を生み出す豊かな畑となるために～」
市岡 之俊 師 「日本における司祭養成の現状と将来への展望」

日時 2015年10月12日（月） 体育の日
午前9時45分～午後3時15分（受付 午前9時より）

会場 カリタス女子中学高等学校

住所 川崎市多摩区中野島4-6-1（交通 JR南武線『中野島駅』下車 徒歩 10分～15分）

子供プログラムは、グループを編成し、神父様を含めた分かち合いやグループ対抗のクイズを行いますので、多くの方の参加をお願いします。詳細は、ポスター・チラシをご覧ください。（宣教G・一粒会担当 井上 昭男）

ミニバザーが開催されました

6月21日(日)ミサ後から、ミニバザーが開催されました。

天気予報によると雨マークだったのですが、当日は、大体曇りの涼しいバザー日和となりました。

野菜、クッキー、ハム・ソーセージ、ソーメン、お茶などの食品類は早々に売り切れ、新集会室での中古衣料もおすすめ上手の店員さんのおかげで、どんどん売れていきました。買い物は、いくつになっても楽しいものですね。

落ち着いてゆっくりと選ぶことができ、とても良かったです。

集会室では、信徒の会の皆様がお茶の用意をしてくださり、お話を楽しんでいました。

中和田教会関係者以外のお客様もみえて、歓談されている姿も見られ楽しい1日でした。

(武田幸子)



東日本大震災の被災地を再び訪れる

私は先月5月29日より31日まで、宮城県三陸町志津川で開催された旧国鉄カトリックの全国大会に、亡き山崎神父様と関わりの深かった中和田の皆さんと5人で参加してまいりました。東日本大震災後、被災地を訪ねたのは、2回目になります。

今回の旅行で一番印象に残ったことは、被災された場所に行った時の気持ちです。瓦礫が無くなっていても、もともと、建物など、全く無かった所かしら、と思えるような景観に、深く心が沈みました。

被災場所の一つの南三陸町防災対策庁舎跡はもともと本庁舎には危機管理課があり町災害対策部が置かれていました。報道での場所で思い出される方も多いと思いますが、津波襲来から39分で水が屋上まで到達し多くの人が犠牲になった所です。

バスで復興途中の砂利道を進み、赤く錆びた骨組だけが残る庁舎の前に着くと、お地藏様が二体置かれていました。お花や千羽ずるが供えられ、ふと見ると一体のお地藏様の首にはロザリオがかけられていました。今も行方不明の方が多くいらして、また遺族の方々の苦しい悲しい気持ちを思うと、心から御冥福を祈らずにはいられませんでした。

その他、日和山などバスの車窓より被災場所を幾つか見て、改めて時間の経過はあっても、暮らしへの不安な想い、苦難を背負って生きていかなければならない人達がいることを知りました。

震災から生き残っても、他の地方に移り住む方も周りに多く、人口の減少で今、“東北のこの被災地を忘れないで下さい”と言う悲痛な気持ちが伝わってきました。

ホテルで働いていて、怖い想いをした若い語りべの方の体験談を聞きました。

私自身、被災地に赴いても、何もお役に立てないのではないかと感じていました。

ですが、来て下さるだけで本当に有難い、復興の一步に繋がると、喜んで下さる声を聞き本当に来て良かった、そして多くの方達も三陸海岸の美しい景色を見に行つてほしい、そのように、願いました。(小野 和江)



総務グループに携わって

いつも教会運営をお世話して下さる方には感謝しながら、ごミサに与るのみでしたが、

岩渕委員長さんから、出来る時、出来る範囲でよいのでお手伝いしてもらえたら、とのお声かけがありまして、総務活動の内容も皆目わからない状態でしたが、縁の下のお手伝いならと、参加させて頂き4年目になります。

総務の活動内容につきましては、H26年4月号の広報「なかわだ」に、岩渕さんが書いて下さっていますので、ご確認頂けたらと思います。

今年度も上野総務委員の下、出来る時、出来る範囲で、に甘えさせて頂きながらお手伝いさせて頂いていますが、私事を優先の怠け信者です、他のメンバーさんには、いつもご迷惑をおかけしてしまい、大変申し訳なく思っています。

長年教会の為に色々ご苦労されてこられた、小山恭子さんが一区切りつけられましたが、

中和田教会の大枠を把握させて頂いての小山（恭）さんには、これからは何かとお世話になりますが、宜しくお願い致します。

ささやかな関わりで恐縮ですが、岩渕さんが仰って下さったように、現状の中で少しでもお手伝いできたら、の思いで携わっていますので、今後共宜しくお願い致します。（小山利江）

委員会だより（文中敬称略）

△6月14日（日）11名出席▽

■日野神父様のお話

・転勤後、1年経ちました。これから、健康に気を付けていきたいと思っています。来週のミニバザーに向けて、準備しています。

■各グループからの報告

●副委員長（岩崎）

・第2回第5地区共同宣教司牧委員会（5月17日）報告

△3部門報告▽

①「祈る力を育てる」部門

3月26日（日）に、鍛冶ヶ谷カトリック幼稚園で「祈りのワークシヨップ」を実施。

②「神の愛を証しする力を育てる」部門

現代社会の問題にもっと目をむけたり、被災地支援の活動に参加したりしよう。

教会に來られない人との繋がりを大切にしよう。

③「信仰を伝える力を育てる」部門

家庭での信仰、祈りをたいせつにしよう。教会の魅力とは？

△防災について▽

①各小教区の「災害時連絡員」の具体的な運用は、今後検討していく。

②各教会の防災体制についての報告が行われた。

△堅信式▽

今年の予定：11月15日（日）大船教会
11月22日（日）藤沢教会

△バザーの予定▽

10月18日（日）：藤沢教会

10月25日（日）：大船教会、戸塚教会、中和田教会

10月（未定）：片瀬教会

●典礼（小野）

・6、7月の典礼暦の確認。

・5月31日（日）のミサ後に中庭マリア像前で行ったお祈りは、信徒が概ね全員参加した。

今後、**「中和田共同体」**で祈る場を企画していく。

・ミサ典礼の改善事項（ミサ後のお知らせの時間の短縮、会衆席の座り方）について、できることから実施していくことになった。

・各地区の典礼奉仕作業への参画については、地区代表の方々と検討していく。

・横浜教区の「聖体授与の臨時の奉仕者」研修会には、当教会から大宮智さんを派遣した。

●要理（大宮（ひこ）

・7月末に要理夏季学校を行う。

・要理学校に使う教材を棚に移動する際は、作業にご協力をお願いしたい。

●宣教（岩崎）

・横浜地区一粒会大会が、10月12日（月）に行われる。

・本日、湘南キリスト教セミナー実行委員会が行われる。

・今年の泉区民クリスマスは、代表に内藤さんが出席する。

●福祉（楠田）

・ネパールの地震災害への募金は、現在約3万円集まったので、送金する。

・ホームレス支援のための梅、野菜の寄付を送った。

●建物を考える会・営繕（五十嵐）

・新集会室ドアのガラスの修理をした。

●広報（武田）

・原稿依頼（締切6月24日）

●総務（上野）

・7月のホワイトボード確認。

・9月の敬老の日のお祝いのお知らせは、連絡網で流す。新しくデビューされる方には、直接連絡する。

●行事（武石）

・今年の敬老の日の祝賀会は、9月13日（日）に実施予定で準備する。これに伴い委員会は12日（土）に行う。

●バザー委員会（岩渕）

・6月21日（日）のミニバザーのために、順調に準備を進めている。

■その他報告事項

・月修配布資料について、説明された。

・スケジュール確認（7月）

・「教会建物の将来を考える会」については、9年後の献堂50周年を前に教会建物をどうしていくかについて、ビジョン案を策定していくことになった。メンバーも決まり、月1回開催し、教会建物の耐久性など検討事項は色々あるが、1年以内に目途を付ける。

■その他

・12月初旬から一週間、神父様が休暇を取られる予定。その期間に、黙想会、赦しの秘跡を計画する予定。以上

（次回委員会 7月12日）